

公益社団法人中間市シルバー人材センター 平成28年度事業報告

1. 概要

平成28年度の国の状況は、デフレからの脱却、雇用・所得環境の改善や、経済対策等の効果は、緩やかに回復し、シルバー事業につきましては、会員に働く機会を提供することを通じて、会員の生きがいの充実や生活の安定、また、地域社会の発展や現役世代の下支えなどを推進すること、高齢化や労働力人口の減少の更なる進行が見込まれる中で、シルバー人材センターの果たす役割はますます重要となり、シルバー人材センターにはその役割を果たすことが求められているところであります。

そのような中、センターを取巻く環境は大変厳しい状況下ではありますが、本年度は労働者派遣事業で、受取手数料が前年度と比較して16万円の増額、受託事業では83万円の減額となりました。

公益社団法人中間市シルバー人材センター（以下「センター」という。）は、発注者から信頼され、地域に密着したセンターを目指すため、市等関係機関の支援を得ながら第3次中長期計画「センター基本指針(平成26年度から5年間)」に則って、センター事業のあり方や取組みを、役員及び会員が一体となって事業の推進を図りました。

事業所並びに高齢者の方々に派遣労働の説明や、年2回発行します機関紙「いきいきシルバーなかま」やリーフレット等で普及啓発を行い、新規入会者の募集を行ったところ、33人の入会がありました。また、会員のロコミやイベント等でチラシの配布を行い仕事の新規開拓をいたしました。

適正就業については、厚生労働省発刊のシルバー人材センター適正就業ガイドライン「シルバー人材センターのご案内」のとおり請負、委任、派遣、職業紹介の形態例、保険の適用について、また就業の範囲「月に10日以内、週に20時間」等、を遵守することについて、役員、職員、会員、発注者に周知し、また新規入会者には、入会説明会時に説明を行いました。

安全就業につきましては、災害ゼロの取り組みとして、常に安全意識を持たせたところですが、事故発生件数は8件で、昨年より2件増加となりました。

安全就業の更なる強化について、安全委員会やパトロールの強化、交通安全講習会等の開催や、センター全体の組織的な活動や就業会員が日々危険箇所の確認を行うなど、安全委員会を中心に、職員、会員が一体となって災害ゼロをめざしたところです。